

OPACK オーパック めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



<http://www.opack.jp/>

年頭にあたって

公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構 理事長 貴正義

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、日頃より九州大学学術研究都市構想の推進に對しましてご尽力、ご支援頂き深く感謝申し上げます。

平成17年10月の『工学系』から始まった伊都キャンパスへの統合移転事業は、その後『全学教育系』や『理学系』が順次移転し、昨年秋の『農学系』と『人文社会学系』の移転により、完了いたしました。

これをもちまして、日本最大の単一キャンパスである九州大学伊都キャンパスが完成いたしました。



移転に併せて、九大学研都市エリアでは、水素をはじめ、ナノテク、有機光エレクトロニクス、システムLSI等最先端の科学技術分野における産学連携施設や研究施設が数多く立地し、活発に活動しております。昨年は、九州大学の研究成果の下、起業を目指すための事業化検証プログラム「九大ギャップファンド」からの第1号として、^{ガク}蚕を用いた医薬品・診断薬・試薬の開発を目的としたベンチャー企業が設立されております。

また、昨年4月には、学園通り線東回りルート^{ガク}の全線4車線供用が開始され、統合移転完了に併せ、伊都キャンパスへのバスの運行本数が増便されるなど、アクセスの強化も着実に図られています。

今後は、九大統合移転完了によって充実した研究開発施設や時代に先駆けた取組み、研究シーズや人材をさらに活用し、九州大学学術研究都市構想の総仕上げに向けて産学官がより一層連携し、新たなステージを迎える九州大学学術研究都市づくりを力強く推進していく必要があります。

OPACKといたしましては、これまでの『理工学系』に加え、『農学系』・『人文社会科学系』との連携を強化するなど世界的な「知の拠点」づくりを目指し、「広報活動、研究支援、交流支援、立地支援」により一層取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



もくじ

- <年頭にあたって>..... 1p
- <九大統合移転事業と九大学研都市の歩み>..... 2・3p
- <農学系総合研究棟、移転完了！>..... 4・5p
- <お知らせ>..... 6p
 - 展示会への出展と「シーズ発表会」開催のお知らせ
- <自治体からの九大学研都市に関するお知らせ>..... 6p
 - 「成長意欲のある中小・ベンチャー企業を支援しています!(福岡県ベンチャーマーケット(FVM))」(福岡県)
 - 「ふくおか産学共創コンソーシアムのご案内」(福岡市)
 - 「九州大学水素エネルギー体験学習事業を開催」(糸島市)

メルマガ会員募集中

九大学研都市メールマガジンは、九大学研都市エリアのイベントや自治体、大学、産学連携、研究機関の活動情報など、九大学研都市に関する最新情報をお届けするメールマガジンです。

申込方法

<http://www.opack.jp/> からメールマガジン募集ページにてお申込みください。



九州大学統合移転事業と九大学研都市の歩み (1991~2008)

九州大学

九大学研都市

1991

- ・福岡市西区元岡・桑原地区への移転決定



(キャンパス統合移転事業造成着工式)

1998

2001

- ・「九州大学新キャンパスマスタープラン2001」策定



(当時の航空写真)



(キャンパス全景イメージ図) マスタープラン2001より

2004

2005

- ・工学系総合研究棟 (ウエスト3・4号館) 竣工

2006

- ・工学系総合研究棟 (ウエスト2号館) 竣工
- ・伊都キャンパス学生宿舎 (ドミトリー) 竣工
- ・生活支援施設 (ビッグどら) 竣工



(工学系全景)



(超顕微解析研究センター)



(ビッグどら)



(ウエスト2・3・4号館)

2008



(ウエスト2・3・4号館)



(ドミトリー1)

第IIステージへ

- ・九州大学学術研究都市推進協議会設置

- ・九州大学学術研究都市推進協議会にて「九州大学学術研究都市構想」を了承

- ・九州大学学術研究都市推進機構 (OPACK) 設立

- ・九大学研都市駅開業

- ・伊都キャンパス行きバス (昭和バス・西鉄バス) 運行開始

- ・大型ショッピングモール開業

- ・学園通線 (西回りルート) 一部供用開始



(九大学研都市駅)



(九大学研都市駅完成式典)



(大型ショッピングモール)

- ・糸島コミュニティバス運行開始

- ・福岡市産学連携交流センター (FiaS) 1号棟開所



(産学連携交流センター)



(糸島コミュニティバス)

第Iステージ
〔移転人数総数 約5,200人(学生4,200人/教職員1,000人)〕

九州大学統合移転事業と九大学研都市の歩み (2009～現在)

九州大学

九大学研都市

2009

- ・全学教育棟（センター1・2号館）竣工
- ・比文・言文研究教育棟竣工
- ・数理学研究棟竣工
- ・総合体育館・課外活動施設竣工
- ・学生宿舎（ドミトリーⅡ）竣工

2010



(センター1・2号館) (比文・言文研究棟)

2011



(総合体育館) (ドミトリーⅠ・Ⅱ)

2013

- ・学生宿舎（ドミトリーⅢ）竣工
- ・伊都協奏館竣工
- ・椎木講堂竣工
- ・基幹教育院棟（センター3号館）竣工

2014



(椎木講堂) (椎木講堂大ホール) (伊都協奏館)

2015

- ・理学系総合研究棟（ウエスト1号館）竣工



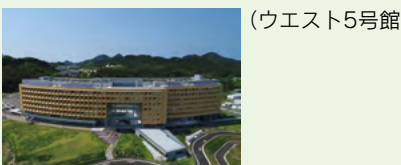
←(ウエスト1号館) (中央図書館)

2017



2018

- ・中央図書館竣工
- ・農学系総合研究棟（ウエスト5号館）竣工
- ・人文社会科学系総合研究棟（イースト1・2号館）竣工



(イーストゾーン)



《伊都キャンパス全景》

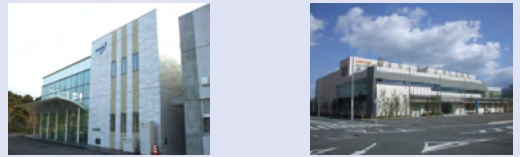
第Ⅱステージ

〔移転人数総数 約10,800人(学生9,500人/教職員1,300人)〕

第Ⅲステージ

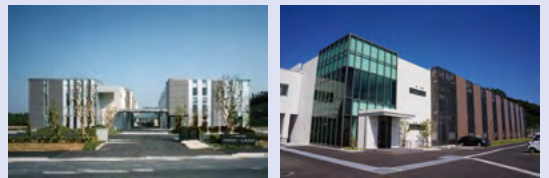
〔移転人数総数 約18,700人(学生15,500人/教職員3,200人)〕

- ・水素エネルギー製品研究試験センター開所【糸島リサーチパーク】
- ・福岡市西部地域交流センター(さいとぴあ)開所



(水素エネルギー製品研究試験センター) (さいとぴあ)

- ・三次元半導体研究センター開所【糸島リサーチパーク】
- ・社会システム実証センター開所【糸島リサーチパーク】
- ・有機光エレクトロニクス実用化開発センター開所
- ・福岡市産学連携交流センター2号棟開所
- ・水素燃料電池バス実証実験
- ・第1回いとにぎわい祭り開催

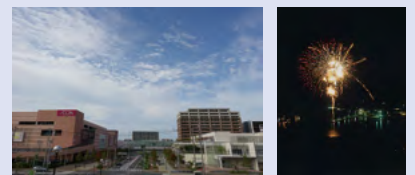


(三次元半導体研究センター 社会システム実証センター) (産学連携交流センター 2号棟)

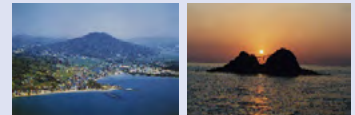


(水素燃料電池バス) (有機光エレクトロニクス実用化開発センター) (いとにぎわい祭り)

- ・学園通線(東回りルート)全線供用開始
- ・無添加化粧品開発メーカー開所【泊研究団地】
- ・IoTデバイス開発企業開所【糸島リサーチパーク】
- ・総合試薬ディーラー開所【泊研究団地】



(現在の九大学研都市駅)



農学系総合研究棟、移転完了！



ウエスト5号館外観



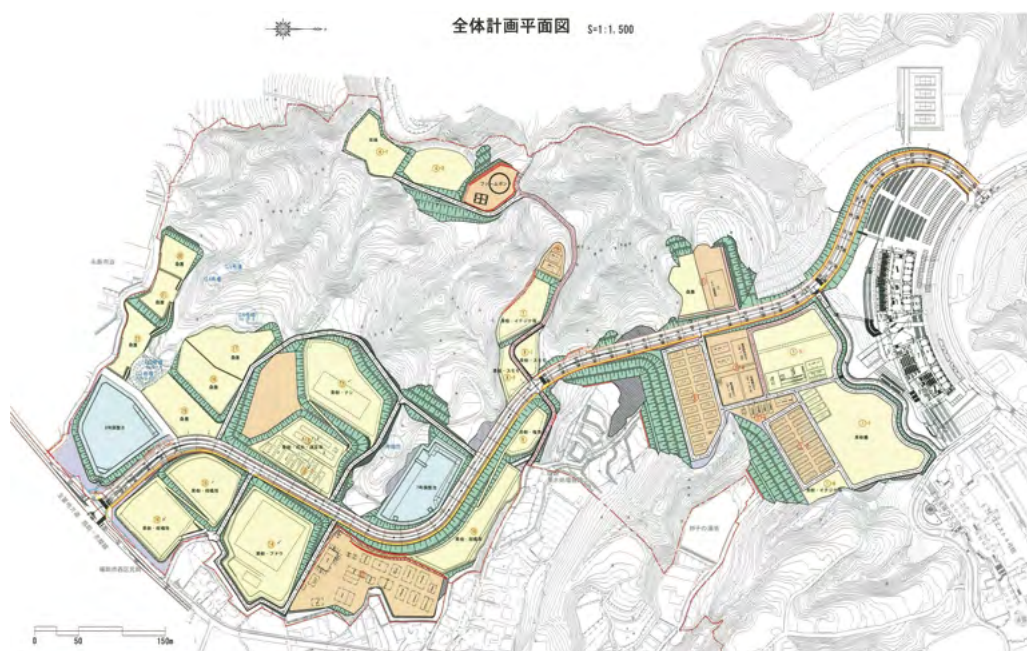
ウエスト5号館から圃場及び糸島平野を望む

九州大学農学部は、東京大学、北海道大学の農学部に次いで、1919年に設置され、農学系基幹大学として、「研究重視」、「応用に偏らず、理論に流されず」の視座からの教育研究を通して、これまで各界で活躍する優れた人材を多数輩出し、我が国やアジア地域の人々の生活の向上と関連産業の発展に大きく貢献してきました。

九州大学大学院農学研究院では、「生命、水、土、森、そして地球から学び得た英知を結集し、人類の財産として次世代へ伝え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進化する農学を実現する」ことをミッションとし、生物資源・環境に関する教育研究、国際協力、社会連携を通して、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全及び人類の健康と福祉に貢献することを目指しています。そのために、1) 生命科学研究の急速な発展を背景に、生物機能の解明・利用・創製を目指した新農学生命科学領域、2) 地球規模での環境保全の立場から、生物多様性に配慮した環境調和型・物質循環型の持続的な生物生産・農村空間システムを構築する環境科学領域、3) 中長期的な食料生産力の増大を目指す観点から、アジアモンスーン地域における潜在的食料生産力に着目し、生物資源、生物利用、環境保全、農村開発を含む国際アグリフードシステム領域、4) 食の安全・安心に対する社会的ニーズを踏まえて、食料の機能性・安全性や信頼できる食料供給システムの構築を推進する食科学領域を4本柱とし研究・教育を進めています。上記の目標達成のために「教育」、「研究」活動のほか、「社会貢献」、「国際貢献」にも積極的に取り組んでいます。

2019年に100周年を迎える本研究院は、新たな100年に向けて、伊都キャンパスにおいてスタートします。伊都地域は大きな農業地帯で、海や山も近く人を引き付ける魅力ある地域です。農学研究院、農学部にとって、このフィールドが間近にある環境は大きなアドバンテージとなり、この移転によるメリットは他の部局より大きいものとなります。

農学部の附属農場移転は、少し遅れて2年半後までに移転を完了する予定ですが、農場の移転整備に向け農学部から伊都キャンパスの南ゲートまでの長さ約1Kmにおよぶ幹線道路一帯を普通畑や果樹園などとし、キャンパス総面積の8.3%に当たる22.7畝を農場として整備することで、福岡、糸島の方々に向けた顔としていく予定です。この広大な農場を「オンキャンパス農場」として、全国の大学で初の試みとして整備していきます。



南ゲート幹線道路周辺の圃場整備計画 (右側：ウエスト5号館 左側：南ゲート)

農学部創立百周年記念事業について



九州大学農学部は、1919年(大正8)年2月に九州帝国大学農学部として設置され、2019年には「農学部創立百周年」という記念すべき年を迎えます。百周年を機にその歴史を振り返って先達の偉業を偲び、さらに一層の発展を期すべく、九州大学創立百周年記念事業を計画しております。

また、2018年の秋に箱崎から伊都へキャンパスの移転を完了したことから、新キャンパスでさまざまな記念事業を展開してまいります。

なお、本事業は、教職員・卒業生・関係各位のご寄附により実施してまいります。実現に向けた皆様の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

I. 農学部創立百周年事業では、以下の農学部理念に沿った事業を展開してまいります。

『生命、水、土、森そして地球から学び得た英知を結集し、人類の財産として次世代に伝え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進化する農学を実現することを使命とし、生物資源・環境に関する教育研究、国際協力、社会連携を通して、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全及び人類の健康と福祉に貢献する。』

II. 九州大学農学部創立百周年記念事業では、下記のような事業を展開してまいります。

- ① 2019年10月19日(土)に、伊都キャンパスにおいて記念式典、記念講演会を行い、その後会場を西鉄グランドホテルに移して記念祝賀会を行います。
- ② 伊都キャンパスのウエスト5号館南側芝生地に、木造の記念建築物の建立を計画しており、本施設は広く教職員・卒業生・学生が集い、地域との交流ができる場として活用することを想定しております。(記念建築物のイメージ図をご参照ください)
- ③ 九州大学箱崎キャンパスに設置されていた記念碑等については、一部を伊都キャンパスに移設することとし、記念植樹につきましても、伊都キャンパスに移植可能な樹種の移植に加えて、新たな樹種を伊都キャンパスに植樹予定です。
- ④ 農学部の歴史を振り返る写真等を掲載したDVDを作成し、記念式典時に配布する予定です。その後、記念誌の発行も計画しております。

なお、上記の記念事業を実現するために、九州大学学内教職員、同窓生ならびに関連する法人の皆様にご寄附をお願いしております。これまでに、多くの方々から貴重なご寄附をいただいておりますが、より充実した事業としてゆくためには、まだまだご協力を仰がねばならない状況にあります。九州大学農学部創立百周年記念事業ホームページ <http://www.100th-kinen.agr.kyushu-u.ac.jp> をご参照のうえご寄附をお寄せいただくと誠に幸いです。

九州大学箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転が完了し、新キャンパスにおける農学部の更なる発展のため、本事業を盛大に執り行う所存でございます。関係各位の皆様方のご支援とご協力をこころからお願いする次第です。何卒よろしくお願い申し上げます。



記念建築物のイメージ図



お知らせ

展示会への出展、発表会の開催を行います。是非、ご来場ください。

■ nano tech 2019

ナノ材料・素材、超微細加工技術、評価・計測分野をはじめとする応用分野における世界最大の最先端テクノロジー展示会。

会期：平成31年1月30日(水)から
平成31年2月1日(金)まで
会場：東京ビッグサイト

■ FC EXPO 2019

水素・燃料電池の研究・開発・製造に必要なあらゆる技術、部品・材料、装置、及び燃料電池が一堂に出展する国際専門展示会。

会期：平成31年2月27日(水)から
平成31年3月1日(金)まで
会場：東京ビッグサイト

産学官交流促進シーズ発表会 (九州大学の研究シーズの発表会)

九州大学の学術研究・産学官連携本部と共同で、下記の通り九大研究者のシーズ発表会を開催します。是非ご参加ください。

日時：平成31年3月14日(木)13時30分~18時30分(交流会会)
会場：九州大学・日本橋サテライト
(東京都中央区日本橋本町2-3-11)
内容：九州大学の研究者等による研究に関する講演など

九大学研都市に関する自治体からのお知らせ

福岡県 ▶▶▶ 福岡県では成長意欲のある中小・ベンチャー企業を支援しています!(フクオカベンチャーマーケット(FVM))

福岡県は、福岡県ベンチャービジネス支援協議会が実施するフクオカベンチャーマーケット(FVM)において、ビジネスプラン発表会・商談会を通じたビジネスパートナーとのマッチングの場を提供するなど、成長意欲のある中小・ベンチャー企業を支援しています。

FVMでは、これまでに498社(2018年10月末現在)の企業が資金調達や販路拡大など具体的な取引を始めています。

特に顕著な事業実績をあげた企業や優れたビジネスプランに贈るFVM大賞2018には、人工衛星開発を行う「株式会社QPS研究所」と高効率風力発電機開発を行う「株式会社日本風洞製作所」の九大発ベンチャー企業2社を含む計5社を選定しました。

福岡県内で、新たな事業をお考えの際は、是非ご活用ください。

<お問い合わせ>

福岡県ベンチャービジネス支援協議会

住所：福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 福岡商工会議所ビル8階

TEL：ベンチャーサポートセンター 092-710-5800

URL：https://fvm-support.com



写真：FVM大賞2018授与式

福岡市 ▶▶▶ ふくおか産学共創コンソーシアムのご案内

本コンソーシアムでは、地域における企業等の研究開発力の向上や研究開発型スタートアップの創出・育成に係わる多様な主体が、組織や業種の垣根を越えて交流・連携できる場(環境)をつくとともに、その場から、多くの交流・連携活動が自律的に生まれるための支援活動に取り組んでいます。是非、ご参加下さい(会費無料)。

<活動概要>

I 交流・きっかけづくり

普段は出会わない専門分野・異分野との交流促進・場づくり

II 発展のための取組み

よろず相談「分析NEXT」による企業等の技術的な課題解決支援や、技術・学術交流・セミナー等で生まれたつながりの深化・発展

III 共同研究・開発支援

特定テーマの研究會開催や、産学連携等による新製品・技術の共同研究・開発体制の構築、競争的資金獲得支援等

IV 事業化・製品化支援

事業化・製品化のための競争的資金獲得や金融機関とのマッチング支援、他の支援機関事業との連携・活用による支援等

<お問い合わせ先>

ふくおか産学共創コンソーシアム事務局 公益財団法人九州先端科学技術研究所(ISIT) 産学官共創推進室

住所：福岡市西区九大新町4-1 福岡市産学連携交流センター内 ○E-mail：fukuoka-kyoso@isit.or.jp

○ふくおか産学共創コンソーシアム Web：https://fiac2.isit.or.jp/ ○よろず相談「分析NEXT」 Web：https://next.isit.or.jp/yorozu/



糸島市 ▶▶▶ 九州大学水素エネルギー体験学習事業を開催

糸島市は、夏休み期間中の3日間、市内の小学4、5、6年生を対象に九州大学伊都キャンパスで水素エネルギーについて楽しく学べる体験学習事業を開催しました。

子どもたちは、最先端の研究に取り組む九州大学次世代燃料電池産学連携研究センターの若手研究者から、水素のことや水素エネルギーで動く機械の仕組みなどを教わり、研究施設内を案内してもらいました。

また、水の電気分解で水素を発生させ、その水素で電気を起こす簡易燃料電池による実験では、発生した電気で電極に付けたオルゴールの音が鳴ると、子どもたちから驚きの声が発せられました。

子どもたちからは、「地球温暖化で環境を悪化させたくない」「もっと水素のことを調べたい」などの感想が寄せられ、「九州大学が身近になった」「九大生をめざしたい」との声もありました。

次代を担う子どもたちが、水素エネルギー研究の最先端地である九州大学で学ぶことで、大学の研究に興味を抱き、環境問題やエネルギーについて考える貴重な体験となりました。(糸島市地域振興課)



写真：西原正通准教授が行う燃料電池の実験を見守る子どもたち